

通し番号	3999
------	------

分類番号	15-40-13-09
------	-------------

(成果情報名) 建設発生木材等を主原料とする植生マットの利用方法
[要約] 建設発生木材ガラを加工した「植生マット」の緑化場面での利用方法として匍匐生植物の地上部被覆面としての利用を検討し、ヒメイワダレソウ及びヒメツルソバにおいて節からの発根及び良好な被覆面の形成が見られ、その有効性を確認した。
(実施機関・部名) 神奈川県農業総合研究所 生産技術部 連絡先 0463-58-0333

#### [背景・ねらい]

建設リサイクル法の施行により、建設廃棄物のリサイクルが義務づけられた。木材ガラについては再生材の需要が少ない。そこでチップ化した木材ガラをボード状に加工した資材（以下「植生マット」）の緑化場面での利用方法を検討する。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 圃場に植栽したマット苗周囲を植生マットで囲い地上部の被覆状況を観察した結果、ヒメイワダレソウは被覆倍率でレンガ区3.9倍に対し6.5倍（対照区 - 囲い無し - は7.7倍）と大きく勝り、ヒメツルソバではレンガ3.6倍、対照区3.5倍に対し3.4倍とほぼ同等であった。また、ヒメイワダレソウではレンガ区がいびつな被覆面を形成したのに対し同心円状の美しい被覆面を形成した。
- 2 ヒメイワダレソウの匍匐枝の各節から植生マットへの根の伸長が観察された。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 屋上緑化や建物周辺植え込み升等において抑草資材とエクステリアを兼ねた資材として匍匐性植物との組み合わせ利用が期待できる。
- 2 空隙率等を改善し耐久性を向上させる必要がある。
- 3 原材料となる建設発生木材中に含まれる可能性があるCCA等有害物質については明治大学他共同研究機関において調査・研究中である。

[具体的データ]



図1 植生マットの設置方法

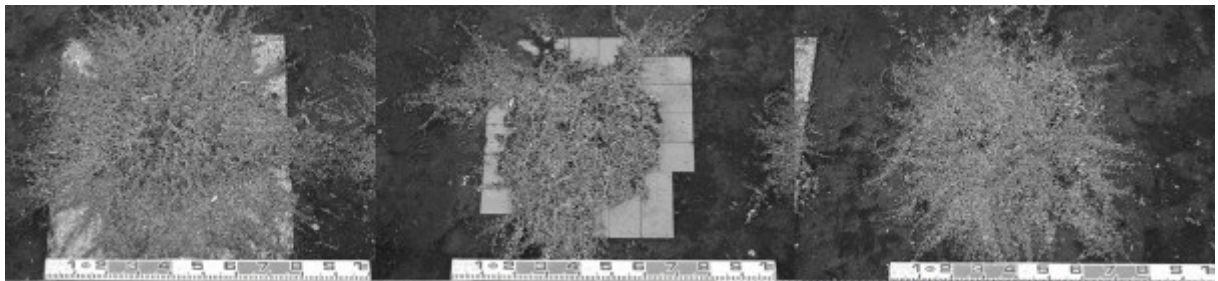


図2 ヒメイワダレソウの被覆状況

左：植生マット、中：レンガ、右：対照

植生マットは対照同様均一に放射状に被覆しているが、レンガは不均一な被覆。

表1 被覆状況

供試植物	試験区	被覆面積(m <sup>2</sup> )	倍率 <sup>z</sup>
ヒメイワダレソウ	植生マット	4.2	6.5 ( 85 )
	レンガ	2.5	3.9 ( 51 )
	対照	4.9	7.7 ( 100 )
ヒメツルソバ	植生マット	2.2	3.4 ( 98 )
	レンガ	2.3	3.6 ( 104 )
	対照	2.2	3.5 ( 100 )
ポテンティラ	植生マット	0.8	1.2 ( 72 )
	レンガ	1.3	2.0 ( 119 )
	対照	1.1	1.7 ( 100 )

z: 植生マットで囲まれた部分の面積を1とした、( )内は対照区を100とした場合の比率

[資料名]平成15年度試験研究成績書(花き・鑑賞樹)

[研究課題名]建設発生木材等を主原料とする植生マットの性能評価

[研究期間]平成14～16年度

[研究者担当名]相原朋之